日　時　　平成１７年　９月３０日（金）５校時
児童数　　５年生　男子２名　女子２名　計４名
　　６年生　男子１名
授業者　　石　　川　　彰　　子

第６学年

１．単元名　　学習したことを生かして
　教材名　　「海の命」

２．単元について

(1)　児童について

６年生の児童は，これまで学習した「やまなし」では，かにの心情を読み取り，それを通して「五月」と「十二月」の二つを対比しながら学習を進めていった。語彙の少ない児童ではあるが，かにの様子や会話にサイドラインを引き，その語句から「五月」は恐怖を，「十二月」は幸せなかにの心情を読み取ることができた。色彩語や比喩表現からは，かにの心情や谷川の情景を想像することもでき，「五月」と「十二月」を対比して構成は似ていても，谷川の情景が異なっていることを読み取ることができた。しかし，そこから主題が何であるかを考えるまでには至らなかった。そこで，この「海の命」を学習することによって，少年太一の夢に向かって成長する姿から主題について考える力をつけていきたい。

(2)　教材について

第５・６学年の「Ｃ読むこと」における目標は,「目的に応じ，内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。これを受けて本単元では,「これまでの学習を生かして，場面の移り変わりとともに変化する登場人物の心情と，その成長を読み取る。」を主目標とする。

本教材は, 六つの場面で構成されている。それぞれの場面を貫いて流れるものは, 少年太一が父親, 祖父またそのずっと先の祖先が生きた生命の母なる海に寄せる熱い思いであり，父の死を乗り越え, 父のような漁師をめざした成長の姿が描かれている。太一の成長には,「海のめぐみだからなあ。」と達観する父の言葉と「千びきに一ぴきでいいんだ。」という長年の経験から裏打ちされた与吉じいさの言葉が, 深く関わっている。これらの言葉に対して太一がどう思ったかは直接的には書かれておらず, 他の場面での太一の言動の中に間接的に表れている。児童はこれまでの学習を生かして，こうした太一の言動を表す言葉に着目して読み進めることで, 父と共に海に出るという夢が叶わなかった太一が, 次に父を破った瀬の主を仕留めたいという新たな夢を持って成長していったことを読み取ることができる。しかし、瀬の主と対峙した時，その姿に大自然の命を重ね見て，仕留めることを止めたことから，生涯海の命を守っていこうとする太一の生き方を読み取ることができる教材である。

(3)　指導にあたって

本教材の指導にあたっては，太一が父や祖父が住んでいた海をこよなく愛しており，父のような漁師になることを熱望していたことをしっかりと捉えさせてから学習を進めていきたい。そこから，父の「海のめぐみだからなあ。」という言葉やその死，与吉じいさの「千びきに一ぴきでいいんだ。」という教えと太一の言動を関連づけて読み進め，太一が村一番の漁師に成長したことを気づかせていきたい。物語のクライマックスである五の場面では，父が死んだ後の夢であった，父を破った瀬の主であるクエを自分の手で仕留める機会に恵まれながら，なぜ太一はクエを仕留めなかったのか太一の心情の変化を読み取ることによって，作品の主題である太一の生き方に迫っていきたい。小学校卒業が近づいてくる児童に，大人になることの意味を考えさせ，自らを見つめさせながら学習を進めるようにしたい。

(4)　仮説にかかわって

①　重要語句を明らかにし，確かに読み取るための発問，指導の手立て。

・　太一の成長を表している行動や会話に関わる発問をして，太一の漁師としての生き方について考えさせる。

・　本教材は時間の経過にそって物語が進んでいるので，場面毎の学習の軌跡を重要語句で掲示することによって，太一の成長と心情を豊かに読み取る手立てとする。

②　重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

・　課題解決に役立つヒントカードを用意し，間接指導時でも自分の力で学習を進められるようにする。

3．指導目標

〇関心・意欲・態度

・　今までの学習を生かしながら，漁師としての太一の成長や生き方について考えながら読もうとしている。

〇読む力

・　太一の父と与吉じいさの言葉，それに関わる太一の行動から，その成長や生き方について読み取ることができる。

〇言語の力

・　語感や言葉の使い方に対する関心をもつことができる。

4．指導計画（１１時間扱い，本時８時間目）

	主な学習活動	評価規準	具体の評価規準		努力を要する子への支援
			A	B	C
第一次つかむ（3）	１全文を読んで物語の構成をつかむ。 初めの感想を書いて話し合う。	(読)六つの場面から構成されていることをつかみ，心に残った言葉や場面について感想をもつことができる。	六つの場面から構成されていることや太一の成長をつかみ，心に残った場面について理由をつけて感想や自分の考えを書くことができる。	六つの場面から構成されていることをつかみ，心に残った言葉や場面について感想をもつことができる。	構成に気がつかない場合は，場面ごとの出来事を確認して気づかせる。太一が村一番の漁師になったことについての感想を書かせるようにする。
	２難語句の意味を調べ，確かめる。	(言)難語句の意味や使い方を理解することができる。	難語句の意味を調べ，使い方を理解して短文作りをすることができる。	難語句の意味を調べ，使い方を理解することができる。	
	３場面分けを確認し，学習計画を立てる。	(読)場面ごとに太一の心情に関わる課題を作ることができる。	場面の内容や太一の心情の変化に着目して課題をつくることができる。	太一の心情に着目して課題をつくることができる。	どんな場面であるか考えさせ，それをもとに課題を考えさせる。

第二次　まなぶ　（6）	４太一が海と村一番の漁師である父にあこがれていることを読み取る。	(読)太一の海に対する強いあこがれや，漁師になって父と海に出ることを夢見ていることを読み取ることができる。	クエをついても自慢せず，「海のめぐみだからなあ。」という父と一緒に，大好きな海に出たいと強く願っていることを読み取ることができる。	「海のめぐみだからなあ。」という父のような漁師になり，大好きな海に出たいと強く願っていることを読み取ることができる。	太一の会話文から，海や父に対する心情を考えさせる。
	５与吉じいさに弟子入りした太一の心情と，与吉じいさの教えの意味を読み取る。	(読)どうしても弟子入りしたかった太一の心情と「千びきに一ぴき」の意味を読み取ることができる。	どうしても漁師になりたくて，中学を卒業する前に，無理やり弟子になったが，つり糸をにぎらせてもらえないことと，与吉じいさの教えの意味を読み取ることができる。	どうしても漁師になりたくて，中学を卒業する前に，無理やり弟子になったことと，与吉じいさの教えの意味を読み取ることができる。	中学を卒業する年の夏と言う語句に着目させ，中学を卒業する前から弟子になったことから，太一の心情を考えさせる。
	６与吉じいさの死を知った太一の心情を読み取る。	(読)与吉じいさの死を知っても，自然な気持ちでいる太一の心情を読み取ることができる。	父の代わりに漁師に育ててくれた与吉じいさの死を，父と同じように海に帰ったと受け入れ，心から感謝していることを読み取ることができる。	父の代わりに漁師に育ててくれた与吉じいさの死を，海に帰ったと受け入れていることを読み取ることができる。	太一の会話文に着目させ，心情を考えさせる。
	７父の海に潜る太一の心情を読み取る。	(読)父の仇であるクエを探し，父の海に潜り続ける太一の心情を読み取ることができる。	母の心配をよそに，父の海に潜って，瀬の主であるクエを探し出し，仇をとろうとしていることを読み取ることができる。	父の海に潜って，瀬の主であるクエを探し出し，仇をとろうとしていることを読み取ることができる。	クエに出会った太一が，興味を持てなかったところから，瀬の主を探していることを気づかせる。
	８瀬の主であるクエを仕留めなかった太一の心情の変化を読み取る。 (本時)	(読)探し続けたクエに出会いながら，仕留めなかった太一の心情の変化を読み取ることができる。	瀬の主を獲らなければ一人前の漁師にはなれないと思っていたが，海の命を守ることこそが漁師であると考え直し，父の姿と重ね合わせることで，自分の気持ちに区切りを付け，獲るのを止めたことを読み取ることができる。	瀬の主を獲らなければ一人前の漁師にはなれないと思っていたが，海の命を守ることこそが漁師であると考え直し，獲るのを止めたことを読み取ることができる。	瀬の主の鼻づらに向かってもりを突き出したままの太一に着目させ，心情の変化に気づかせたい。

第二次　まなぶ　（6）	9 漁師としての太一の成長を読み取る。	(読)千びきに一ぴきしか獲らない太一の生き方から，漁師としての生き方を読み取ることができる。	与吉じいさの教えを守り，海の命を大切にしながら漁師を続けていること，海の命である瀬の主を守り通したことを読み取ることができる。	与吉じいさの教えを守り，海の命を大切にしながら漁師を続けていることを読み取ることができる。	千びきに一ぴきしかとらないという言葉に着目させ，太一の生き方を考えさせる。
第三次　いかす　（2）	10 漁師を目指した太一の生き方を振り返り，作品の主題について考える。	(読)この作品の主題である，夢に向かって努力する生き方を読み取ることができる。	父と海に出たいという夢，仇である瀬の主を仕留めるという夢，海の命を守り続けるという夢を持ち続ける太一の姿から，主題を読み取ることができる。	父と海に出る夢が叶わなくても、新たな夢を見つけ努力し続ける太一の姿から，主題を読み取ることができる。	太一が何を目指して生きてきたかに着目させ，主題について考えさせる。
	11 感想を深めて書く。	(読)太一の生き方を中心として感想を書くことができる。	太一の生き方を中心として，物語の感想だけでなく，生き方についての自分の考えも加えて書くことができる。	太一の生き方を中心として，物語の感想を理由も加えて書くことができる。	物語の山場である瀬の主と太一が対峙する場面を想起させ，感じたことを書かせる。

5．本時の展開

(1)　目　標

瀬の主であるクエを仕留めなかった太一の心情の変化を読み取ることができる。

(2)　評価規準

○　瀬の主であるクエと対峙した太一の思いや行動に関心をもち，心情の変化を考えながら読もうとしている。（関心・意欲・態度）

○　探し続けた瀬の主であるクエを仕留めなかった太一の心情の変化を読み取ることができる。（読む力）

(3)　仮説に関わって

①　<u>重要語句を明らかにし，確かに読み取るための発問，指導の手立て。</u>

・　「殺さないで済んだ」という語句を取り上げ，太一はなぜ，瀬の主を殺さなくて良かったと思っているのか考えさせ，太一の心情の変化を深めたい。

②　<u>重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。</u>

・　瀬の主であるクエを自分の手で獲ろうと探してきた太一が，クエを目の前にして殺すことができずにいることを取り上げ，太一の心情の変化に着目させるようなヒントカードを用意しておき，間接指導時でも自分で学習が進められるようにしておく。

(4)　展　開

形態 (時間)	６　　年　　生	
	学習活動	留意点　□支援　◎評価　●重要語句
つかむ 5分	1　前時の想起をする。 2　本時の学習課題をつかむ。 瀬の主であるクエを，目の前にした太一の心情の変化を読み取ろう。	・太一が父の海に潜り，瀬の主を探し続けていたことを想起させる。
ま な ぶ 25分	3　学習内容を読み取る。 ○　本時学習場面を音読する。 ○　クエと向かい合っている太一の心情にサイドラインを引いてノートに視写し，太一の心の動きを書き込む。 ○　サイドラインを引いた語句を確認し，そこから分かる太一の心情を教師と話し合う。 ○　太一はなぜ，瀬の主を殺さないで良かったと思っているのか教師と話し合う。 ○　話し合ったことをもとに，課題に対するまとめを自分なりに考えて書く。	・個別に音読させる。 ●殺さないで済んだ ●この魚をとらなければ，本当の一人前の漁師にはなれない ●泣きそうになりながら ●大魚はこの海の命だ ●おとう，ここにおられたのですか □瀬の主であるクエを自分の手で獲ろうと探してきた太一が，クエを目の前にして獲ることができずにいるということを取り上げ，太一の心情の変化に着目させるようなヒントカードを用意しておく。 ・サイドラインを引いた重要語句を根拠として，発表させる。 ・「殺さないで済んだ」という語句を取り上げ，太一はなぜ，瀬の主を殺さなくて良かったと思っているのか考えさせ，太一の心情の変化を深めたい。 ◎太一の心情の変化について，自分でまとめているか。(ノート)
いかす 15分	4　本時の学習をまとめる。 ○　自分のまとめたものと教師のまとめを比較し，さらにまとめを書く。 瀬の主をとって，一人前の漁師になろうと思っていた太一だったが，与吉じいさの教えを思い出し，とるのを迷った。クエの様子を見ているうちに，クエを海の命だと思うようになり，とるのを止めようと思った。 5　今日の学習を振り返り，次時の学習内容を確認する。	・今日の学習についての感想を５年生と交流し合うようにする。

(5)　具体の評価規準と努力を要する子への支援

	関心・意欲・態度	読　む　力
十　分　満　足　な　子	瀬の主であるクエと対峙した太一の思いや行動に関心をもち，心情の変化を考えながら進んで読もうとしている。	瀬の主を獲らなければ一人前の漁師にはなれないと思っていたが，海の命を守ることこそが漁師であると考え直し，父の姿と重ね合わせることで，自分の気持ちに区切りを付け，獲るのを止めたことを読み取ることができる。
概　ね　満　足　な　子	瀬の主であるクエと対峙した太一の思いや行動に関心をもち，心情の変化を考えながら読もうとしている。	瀬の主を獲らなければ一人前の漁師にはなれないと思っていたが，海の命を守ることこそが漁師であると考え直し，獲るのを止めたことを読み取ることができる。
努力を要する子への支援	探し続けた瀬の主に出会いながら，殺そうとしない太一に関心をもたせる。	瀬の主の鼻づらに向かってもりを突き出したままの太一に着目させ，心情の変化に気づかせたい。

(6)　板書計画

海の命

立松和平作

瀬の主であるクエを、目の前にした太一の心情の変化を読み取ろう。

この魚をとらなければ本当の一人前の漁師にはなれない

父がとれなかったこのクエをとれば、父を追い越し，一人前の漁師になれる。

⇔

泣きそうになりながら

この魚をとっていいのだろうか。

大魚はこの海の命だ

この魚は海の命そのものではないか

殺さないで済んだ

殺さないで良かった。海の命を守っていこう。

瀬の主をとって、一人前の漁師になろうと思っていた太一だったが、与吉じいさの教えを思い出し、とるのを迷った。クエの様子を見ているうちに、クエを海の命だと思うようになり、とるのを止めようと思った。